



一一 日諱貴本紀 にかいきほんぎ

図書館所蔵、河野文庫一一四号。写本一冊。線装本五ツ目綴。料紙は楮紙。墨付三十丁。縦二七・八糎、横二〇・〇糎。灰色漉返紙表紙。内題「日諱貴本紀」、外題「神代時事図書」。本文首葉に「國學院大學図書館蔵」「紫雲文庫」の印記あり。

※ ※

桓武朝の右大臣神王（？）大同元年・八〇六）に仮託された書。神王に仮託された例は本書の他には見られない。成立時期については、妙法院蔵の神像絵巻（『妙法院史料』六卷）に「日諱貴本紀云」として「序文」の全文、第一章「禁疎極伝章」の前半部分の引用がある。同書は奥書に「観応元年庚寅三月十一日賜小野僧正興一御本」とあるから、『日諱貴本紀』の成立は観応元年（一二三〇）以前である。

本書は序文と十八の章から構成されている。その内容は、王権を根拠付ける秘説と王として修めべき徳目とを示したものであり、「天地開闢の由来（①禁疎極伝章）」「即位印明（②鳳祚印明秘伝章）」「神々の形状（③現相日前章）」「三種神器と神鏡の遷座地（④在所靈示章）」「十種神宝・心御柱（⑤貴現分明章）」「神鏡（⑦明体座注章）」「天逆鋒（⑧秘中深極章）」「武内宿禰・聖徳太子等の聖言（⑨皇知宜得章）」「帝徳（⑩帝徳行務章）」「神祀（⑪神祠祭文章）」「祖先祭祀（⑫祖敬崇靈章）」「神の定義（⑬天神明現章、⑭地祇居廟章）」「人王

即位（⑮人王即位章）」「王と臣下が踏むべき徳目（⑯政務道直章、⑰五諱敬礼崇行章、⑱奉臣檢越章）」が記載されている。また本書は複数の素材を基にした類聚的編纂物であることが指摘されている。

本書の伝本は、國學院大學図書館の河野文庫の他、真福寺・天理図書館・早稲田大学図書館の教林文庫・内閣文庫・神宮文庫（二本）・彰考館に現存。真福寺本・天理図書館本以外の本には、巻末の「右大臣從二位神王」の付記として「聖師 密宗伝 大神宮図相伝」血脈図が改竄されており、これらの伊勢神宮系統の写本の改竄は、神宮祠官周辺で行われたことが指摘されている。

（小林宣彦）

【所収本】

『真福寺善本叢刊六卷 両部神道集』（臨川書店）所収、平成十一年（一九九九）

【参考文献】

伊藤聡 『日諱貴本紀』について―その翻刻と解題』『古典遺産』四十四号、平成六年（一九九四）